

第1回検討委員会における主な意見とその意見に対する県・市の対応方針

区分	委員からの主な意見	県・市の対応方針
秋田らしさ	秋田らしさをハードのどこかに盛り込むべきです。これが秋田の県民会館というようなものが必要だと思います。	昨年度、基本設計ワークショップや議会からも同様の意見をいただいております。内装等へ県産材や伝統工芸品を活用し、秋田らしさを演出できるよう実施設計の中で検討しています。
	秋田らしさというのも、とても大事な視点だと思うので、秋田杉を使うとか秋田にまつわるものをセンス良く盛り込むことも検討してほしいです。	
	秋田に出張してきた人に1～2時間ほど時間をつぶすところがないとよく言われるので、まずここに行きなさいという拠点になってほしいです。	秋田の文化情報に触れられる情報コーナーや文化団体の作品を展示できる芸術の路など、目的がなく来場しても楽しめる空間づくりについて検討しています。
	東海林太郎小公園は、新しい文化施設の建設中、ほかの場所に一時的に移設しますが、東海林太郎は秋田が生んだ大歌手ですので、完成後には現在の北側の位置ではなく、エントランス周辺などに移すべきです。それが秋田らしさにもつながると思います。	本施設の完成後は、エントランス周辺の人通りの多い場所へ移設できるよう検討を進めています。
ホワイエ、エントランスロビー等の使い方	ホワイエ、エントランスロビーの使い方は、例えば結婚式などができるようにあまり決めすぎないでほしいです。運営者の裁量で、ホールの中での飲食は確かに難しいかもしれませんが、お堀に面したテラス等ほかの場所は柔軟に対応できるようにしてもらいたいです。	柔軟な施設の運営が可能になるようにルールづくりを進めています。
自主事業と貸館のバランス	自主事業は何年も前から予約されているので、予約を取れないこともあります。だからといって自主事業をやらないでほしいというわけではありませんが、県民・市民が自分たちでやりたいコンサートができなくなってしまう可能性が高いです。自主事業をやっていたきたいし、いろいろな企画をしていただきたい気持ちはありますが、県民・市民が使うホールではないかという気持ちもありますので、その辺のバランスが難しいと思います。	全国の文化施設の状況について調査を進めています。現状では、一般利用者の予約開始時点で、自主事業や興行の予約が占める割合を月の土日の半分程度に抑える方向で検討を進めています。
	自主事業と貸館事業を切り分けして、どちらを優先的に考えるかということで整理すればいいと思います。この施設は公共施設なので、毎年恒例で学校等が必ず行うものは貸館事業として、残りを自主事業で使える余力にするなどです。公共施設の場合、貸館事業として絶対受けなければいけないものを確定するというのが最初のステップだと思います。	
	県の施設はアトリオン等がありますが、美術関係の展示の場合は、ほとんど我々が使いたくても使えない、押さえられているという現状にありますので、新しい文化施設では、自主事業と貸館のバランスを十分考えてほしいです。	

第1回検討委員会における主な意見とその意見に対する県・市の対応方針

区分	委員からの主な意見	県・市の対応方針
指定管理者	<p>県・市で指定管理者を育てていくというイメージ、議論は今までなかったのですか。</p> <p>具体的に指定管理者は県内の企業なのか、県外の企業なのかという問題も出てくると思っています。長い目で地元のプロモーション力を含めて育成するという観点から、私は県内の事業者にしたいという気持ちはあります。ただし、収益の観点からするとプロモーション力に格段の差があるとすれば、ステップは設けてもいいのかなと思います。</p> <p>やることが単純な施設であれば、指定管理者の制度の中でも応募者で競争するというのは一般的だと思いますが、今回のように何か新しいものを創造して鑑賞する場をつくるというときには、人材の話もありましたが、腰を据えた組織というのがある一定期間は必要ではないかと思っています。</p>	<p>本施設は、民間のノウハウを活用できる指定管理者制度を採用することとしていますが、その運営主体には、地域文化に精通し文化振興を推進していける能力や、県・市の文化振興施策や運営方針を十分に理解し確実に遂行できる能力が必要になります。また、指定管理者の育成等の観点から、指定管理の期間は5年程度の一定のスパンが必要と考えています。このようなことを公募の要件に加えることや、県・市が運営に関わる体制の構築について検討していきます。</p>
人材育成	<p>秋田に足りないのはプロデューサーがいないということだと思います。この施設は周辺施設との連携が必要ですから、プロデューサーの育成を図ってほしいと思います。</p> <p>この施設は中心市街地を活性化するための使命も持っていますので、アトリオン、アルヴェ、にぎわい交流館AU、あるいは旧県立美術館、これらを含めたトータル的なプロデューサーが必要と考えています。別々に各々のことをやっていたのでは、まちの活性化にならないので、そういった視点もぜひ持ってほしいと思います。</p>	<p>さまざまな専門性を持ったスタッフを配置する計画とする予定ですが、そのスタッフを統括し、かつ本施設の事業を中心市街地一帯の活性化と結びつけることができる広い視野を持った職員の配置と育成について検討していきます。</p>
県民・市民参加	<p>運営に関しては、PDCAのサイクルももちろんですが、オープン後も運営委員会というのかわかりませんが、市民を巻き込んだ組織をつかって、自主事業と貸館事業のバランスを含めてどうしていくのかということ、広く意見を聴きながら、運営していくような形をとればよいと思います。</p> <p>これからは大きなものを持ってくるだけではなくて、地元で何かつくっていくような仕組みを行政のほうで提供して、そこを市民の方が活用していくような形になっていくと、将来的にはすばらしいと思います。</p> <p>ファンづくりというか、サポーターを増やさないとイケません。会員制にしてもいいでしょう。金沢市の県立美術館が毎年60万人と桁違いの人を集めているのは、毎年小学4年生を無料招待しているのと、その子どもたちが親になったときにリピーターになって子どもを連れて行くという循環をつくっていることによるそうです。</p>	<p>本検討委員会と並行して開催している「ワークショップ」を継続的に実施し、それを母体とした県民・市民主体の運営参画組織ができないか検討していきます。</p> <p>全国の文化施設の状況について調査を進めています。先進的な事例を参考にしながら、サポーターやファンを獲得できる仕組みづくりを検討していきます。</p>
情報発信	<p>こういったすばらしい連携を模索しているということとをどんどんPRしていただきたい、我々利用者のほうにも積極的に情報発信をしてほしいです。いつこういうことがあって、行われて、いつ頃にオープンするんですよ、という情報を仙台や東京でも、積極的にPRしていただきたいです。そうすることによって、うまい循環が生まれてくるのではないかなと思っています。</p>	<p>昨年度に引き続き、プロモーターとの意見交換の場を仙台市等で設けることとしています。また、整備の進捗等をさまざまなメディアを通じて積極的に情報発信していきます。</p>

第1回検討委員会における主な意見とその意見に対する県・市の対応方針

区分	委員からの主な意見	県・市の対応方針
座席のキャパシティ	県民の意見の中では、秋田県や秋田市は人が少ないから、2,000席の大きなホールは不要なのではないかという意見があります。私は間違っていると思います。2,000席があるからいろいろな方に来ていただけます。人口が少ないからとか、人が集まらないからというのはマイナスの発想で、そういう大きなホールがあるから人が集まるということで、つくるならしっかりしたホールをつくるべきです。	高機能型ホールは2,000席以上となる予定です。
ホールの残響	高機能型ホールの残響は何秒を目指しているのですか。残響が少ないホールができた瞬間にそのホールの魅力は全くなくなります。	高機能型ホールの残響は約2秒を目指しています。
駐車場の運営	駐車場のスロープに関してです。例えば吹奏楽コンクールは1日30団体が来ます。30台の4トラックが来るわけです。それが一般の車両と交錯してしまったら、コンクールはできません。制限を加えられるか、主催者で駐車場の管理ができるようにしなければ非常に危ないと思います。	駐車場も含めた全館貸し切りについて検討していきます。また、吹奏楽の大会等でも駐車場運営に支障の出ない具体的な車の動線について主催者と協議していきます。
トイレ	トイレが少ないような気がします。人数が多いときはみなさん一齐にトイレに入ります。入口と出口が反対の方向になっているトイレをお願いしたいということです。	高機能型ホールの女性用トイレ数は県民会館(35器)の2倍近く(71器)まで増える予定です。なお、トイレ内の人の動線は、出入口は1か所となりますが、トイレ内は一方通行となるよう実施設計の中で具体的な検討を進めています。
危機管理	この限られた敷地の中にこれだけの立派な施設があって、万が一災害が起きた時に、3,000人の方がどこに逃げるのかというのが少し心配になりました。中土橋が何らかの理由でストップした場合、緊急車両や救急車が行けなくなるのでないかということをお心配しました。話つくされた点だと思いますが、ニュートラルな広場があまり見られないので、どこに逃げるのかと思いました。	災害時の避難計画や対応マニュアル等の作成について、これまでの県民会館の作成状況を踏まえながら、運営主体が決まった段階で十分に協議していきます。
外国語表記	外国語表記はぜひ検討していただきたいです。県のほうでも一生懸命インバウンド、インバウンドと過去3年すごい力を入れています。特に台湾、タイに関しては、相当のリソースを配分しているはずですが、イベント的に台湾やタイの団体を呼んで何かやるというのでもいいでしょうし、いろいろ秋田県内だけじゃなくて、ほかの国内外の取組を見据えながら、ちょっと大胆な発想で充実したものにしていきたいと思います。	全国の文化施設の状況について調査を進めています。なるべく多くの言語へ対応できるよう検討を進めていきます。
コンベンション、学会、大会等	コンベンションや学会、大会があったときに、その方たちの昼食会場はどうなりますか。今まではジョイナスを使っていましたが、全く飲食禁止となると、がんじがらめの施設になってしまうと思いますが、その辺を検討いただけませんか。 学会をやると、だいたいパーティーがあります。そのパーティーでの情報共有の場というのが、我々にとって大事です。今のままだと、一番近いのは周辺のホテルですが、雨風雪が降っている時にそこまで移動するのはちょっとどうかと、使用者目線として感じるもので、いろいろなしばりはあると思いますが、弾力的な対応が必要だと思います。	エントランスロビー、ホワイエなどの柔軟な利用について検討していきます。